鷹書薬方

六拾貳能

登録 5861 號
第 門
第 部
記號
函架
平野圖書箋

高野鷹藏氏寄贈

UNIVERSITY OF KANSAS LIBRARIES
MS
C167
RARE BOOKS

第一　襖
第二　骨鑟
第三　尾羽出ス
第四　足カサ薬
第五　羽ミツ尾ミツ
第六　黄薬
第七　血気
第八　内ツキ

第十三　上風
第十四　コセ
第十五　臭ノ目
第十六　中風
第十七　羽ブ
第十八　爪ナラ
第十九　脣打
第廿　古下

㐧九　股引
㐧十　タチリ下
㐧十一　イキ
㐧十二　カレキ

㐧廿一　血下
㐧廿二　毛落ミ
㐧廿三　胴氣
㐧廿四　鼻氣

㐧一

一　蘹（リ）　古せ麻ミ　キト切草ツクヅ　是ヲアミシテ
馬ノ血ニシメシテ能くホシテ同アシゲ馬ノフンヲツヘ
何もホウリ黒焼ニしても鳥ノ羽ニ包一度ニ渡テ胴ニ

歯痛ナラバ茶ヲ煎ノ口ヘ入別水ヲ可用之
同カキトヨリ　千ニシハリ　キラシ草何モ等分
右様ニメ唇ニ付レタル時一滾煎ノ口ニ入水ヲ可用之

第二

一　骨續（ホネツギ）　揚梅皮　袋角　黄栢何モ
粉ニメ等分ソクイニヲシテゼ折レタル所ニ付ベシ其上ヨ
湯柳ノ皮ニテ巻置

一　内茶　千子ニシトウ　トラノ尾メ　何モ粉ニ等分

一度々耳カキミミスクイ餅包服べし

方三

一尾（ヲ）羽（ハ）出シ　カキトウリ黒焼　水金ヽ二年目

内のウブゴノフンカゲボシ　カイコノ蔓子ノコタ子

一能々子リ合セシヒミヌリサスベシ

方四

一足（アシ）テカサ出ル　鹿ノ毛ホコマカテキザミカンスイセキ

是ヲホソリヽ合能酢ニテ付（ベシカサノ上ヲ次シクハシシヱテアタヽメテヨシ）

同犬山椒蓼コブヲバコハコベ何レモ同程ニ合
能ク煎ジテ鞁ニテサイクカサノ上ニ付ベシ

第五

一羽ミツ尾ミツジヤカウ桂心山椒何レモ
粉ニシテ等分カタバニテ華ノ汁ニテ羽根尾根ニ付ベシ

第六

一煎（センジ）茶人参イタチノ尾牛膝（ヒザ）麻の葉
茶師草ニリヤウ何レモ等分ニ割合煎可用シ

第七

一　血虫（チムシ）薬　ヒデ　カタシギ　天南星　何も粉にして

右ヲヒデニテ子リ合ヒノ木ヲ細ク錐ニケヅリテ

薬ヌリクイ蔵ダル細ノ穴ニサスヤシシヲ切事二度

本リ血ニテ切也

第八

一　肉ツキ　川芎（センキウ）　フナバラ　白檀（ダン）　甘草（カンソウ）

薬本子何も粉メ右ヲ一度ニ一銭餅包服べし

第九

一股（モヽ）引（ヒキ）リウコ鐵 土射黒焼

カラス瓜白 サウキセイ 黒檣の額黒焼

何も粉ニ大ホ分ニ一度半鐵錆色七日調べし

無別覆入分ニ式ハコシノ目ハキニ用ゆ也

第十

一タテリ下 サイノ角粉ニ 水金ホ分ニ合

一度ニ半鐵錆色調べし

第十一

一 息（イキ）ノ薬 鹿ノ角一匁 ホウワウ一両 人参二分
ウコン二分 川芎一分 白芍薬一分 甘草一分
何レモ粉ニシテ一度ニ耳カキニ三ツ服ニ包飲煎茶ニテ用之

第十二

一 カレキノ薬 ツナワラ ヒルモ ヨモダカ イキグサ
蕗コブ 四季ノ草 甲カ子 何レモ粉ニシテ等分ツヽ一度
半銭服ニ包テ飲ベシ

其十三

一上風（カゼ）キワダノミ　水金　串柿のサ子

黒焼にして粉ニ〆求タル胡麻の油ニテ子リ合針ニ

糸ヲ付此糸ヲ口張テ茶ヲヌリ皮肉ノ間ヘ通スベシ

其十四

一コセノ茶　ソクズ　ニハトコノ木　同程ニ合テ

葉サイ〱アラフベシ

其十五

一　臭ノ目薬　キハダノコ　ユウウ粉ニメホ合
ウスニカハミテ子リ合臭ノ目ニ付ル也上ニ紙ヲ付置之
歳十六

一　中風　ヲバコ　ハコベ　クサ木　桑ノ木　栗ノ皮
何モ同程ニ合能煎右ヲ上ニ石セニシテヨシキ
此煎薬ヲカケテ此イキニ股腰提ノ上マデ二百
灸

一　肉薬　赤ガ子ノセンリズ　樗栗　唐キビノ毛ふ

何も粉メ末シ茶一服ニ水天目ニ一パイ半入テ一ハイニ
煎シ七日飼ベシ餌ニハ雉ヲ用ル
同薬　薬師草黒焼一毎耳草同人参同何も
粉ニメ一度ニ半銭餌ニ包飼也

第十七

一羽ブ薬　ミゾ貝黒焼フシカ子何も粉メ末シ
ニハトリノトサカノ血ニテ子リ合付ル療治ニ口傳

第十八

一　爪（ツメ）ヌケ葉　狸ノ丸カゲ干（ボシ）黒焼　山せミ羽す
ノチテノ黒焼　ヘツノ手黒焼　何も粉〆等分松の
ヤニニテ子リ合付ル

第十九

一　唇折　田ノシブ十毎　千シハリ十毎　クロツクタノミ一ツ
若色一るニ五月三日ヨリヨモギ採り七日飲テ七日目ノ
フシ何も一ツ入黒焼ニ〆一度ニ耳カキニ三ツ餅包ミテ
飲べし　万病ニ用テよし

方廿

一 古下　栗ノ木黒焼一匁 人参二分 茯苓二分
セン大黄一分 チンゴシ一分 白粉半銭 耳草何も
粉ニメ一度ニ耳カキニ二ツ許包服ベシ

方廿一

一 血下　カラモヽノ花 丁子 白粉 三色ノ内
ヨシロイサジ入一度ニ耳カキニ二ツ許テ包テ服ベシ

方廿二

一　搗スル薬　土龍（ドリウ）黒焼　狐（キツ子）肝（キモ）生タカホシ何モ
粉メホシ一度ニ半銭餅ニ包七日服ベシ
搗ト入ル時ノ薬　桑ノ木ノシン　クシン根一束ニ切リ
ミタバミシテ水二升入テ二升ニ薬煎キ伏テ能々
洗イ翌日搗ト致スベシ

方廿三

一　胴乱　檳榔子（ビンラウジ）　人参（ニンジン）ハヅ　沉　甘草
白粉（ヨシロイ）　桂心（ケイシン）　胡椒少何モホシ粉メ大キサ豆ノミノ

ツブ程ニ丸メ夜ニキニシロイキカツルヤ大頭ニ二粒ウ
久ニ二粒服ベシ
同茶人參　黄耆　白朮各〻粉ナホク
一度ニ半錢餌包服ベシ頭ヨリナラバ少宛服ベシ
　中井伝

一鼻（ハナ）氣（ケ）　細辛　川芎各〻粉ナホク
鼻ノ穴ヘヨシノスニテ吹入レベシ

第一惣薬
第二捉ミラミ鷹
第三物ニ又薬
第四クミ薬
第五餌違（チガイ）
第六餌踈（ウトミ）
第七餌押
第八羽カキ付薬

第十九クツタケ薬
第廿爪ヌケ薬
第廿一豆脹（ハレ）薬
第廿二毛カリ薬
第廿三中風薬
第廿四イキリ薬
第廿五毛落薬
第廿六尾ミツ羽ミツ

第九　腹ノ萋薬
第十　羽虫薬
第十一　鼻氣肉薬
第十二　胴氣薬
第十三　蘇（ヨミジガヘル）薬
第十四　瘡根放ヘ膏風薬
第十五　血下薬
第十六　身ろけ薬

第卅七　小風
第卅八　石菖トキシ
第卅九　虫薬
第卌　下氣薬
第卌一　フケリ薬
第卌二　（白馬散　三日散）
第卌三　コセ薬
第卌四　目ハクノ薬

方十七 骨續（ホネツギ）薬　　方卅五 猫（タニ）トリ薬

方十八 皀（ハナ）ケ薬　　方卅六 股引（モヽヒキ）薬

方一

一 惣薬 人参 桂心 山薬 茯苓（ブクレウ） 檳榔子（ビンロウジ）

袋角（フクロツノ） 甘草（カンソウ）少 余ハ等分常ニ飼

同 田の志ぶ 魚そのを 蔦瓜の根 何も等分粉メ

餌ニかきまぜて飼魚し　同 九寳 沈香 山薬

何も等分粉メ餌包飼魚し

同太鳥のゑさを取りてクレナイノ花百メ人参匁
耳草二匁金薄十枚銀薄十枚入合芹にて包ミ
黒焼にして常にて飼ニ鳥すりも用てよし

其二

一 ゑさハこたら葉 麻の子 三ツ年ふ卯ツ木 蕨（ハらび）の根
何も粉メホかり七日ノ間耳かき二盃ツ宛飼べし

其三

一 梅ニゑ菜なつぶし 茯苓なつひる何も粉メ素

合爪のなるうとみちぐなる時此薬用る
雅合ント思ふよひの餌ニ添て飼へし
同薬附るの是鏡かしる同書九ぞゆく月了ろ五月
耳草かし何も粉ニ末耳カキニもり餌ニ包飼是ハ
肉いらぬ餌の様よそてなる時これや何時にも飼薬也
鯛拭のモガタキ又ハ杉い切り又巣のあまり今は
あつきてふさとやきしまらねとも此薬ニ飼へぞ
鳥よ心うつして患ひやよきさ也

虫口

一 久キ薬 天門冬 茯苓（ブクリヤウ） 等分 耳カキニ七ツ

鮒ニ包焼ベし

同薬 ふきの角 茯苓 イヨメ ヘソノキ

犬ノ頭黒焼 何も粉メ 等分 擭ノこ糊ニ丸メ二粒ヅ

鮒ニ包焼ベし

同薬 人参 かしきて 小めしのニ蒸ソ

へぎて串ニさして陰干ニして粉メ等分半銭

三包樽三日飼ベし

同薬　芦毛馬の血ヲ取して黒焼　鹿角

赤がう称のせんじあげて　赤めくしや何丸

粉ニメホふう細截ニハ大豆ツブ程粟粉ハ小豆程

五粒三日飼ベし

中五

一 鵃遠　檳榔子ニ朱　尾長黒ニ朱　赤かいるニ朱

赤さんおう黒焼ニツハギ貫一朱人参同耳草同

金白石殺去鈴一朱河原粉〆合鷹の口ヨリ
て飼水ニ立飼ベシ餌ニ包テモ飼ベシ鷹おとしも
すゝしぬやしに目うげニ盃ベシ并水ニテ飼
妙六

一餌踈（ウトミ）耳草人参粉〆末ヲ餌包耳草也
又汁ニテ飼ベシ

一餌押茶胡椒人参卯木生皮耳草加之
金粉ニ〆末ヲ耳カキニ二三餌包上ヲすゝきの汁ニひたし飼

第八

一

一 羽撥茱　桂心　丁子　烏賊甲　胡椒
何も粉〆古桶の皮ニ薬を茱ねり合せ
痛の上ニ付れ也

第九

一 服引薬茱　大芥根　カルカヤノ根　藤こぶ
家の内の竹の葉ふ　あし　竹根　桑の木　耳草
何も水を天目ニ而一ぱい入なかに薬鍋ニうけ

了て第水にて調合し

其十

一羽虫薬　熊ノ膽（イ）　水金末ヲ練り合羽の根ヲ
よけて綿ニ入置へし

一同薬　ほずきの皮子のクリ　熊の膽ニて練り合
羽グキヲ割（わり）りて入レ置へし

其十一

一鼻氣内薬　楊梅皮　丁子　桂心（ケイシン）　蝉（せミ）の

ぬけがらも何も粉〆壱ツ飯包耳カキニ二ツ
七日飼へし

中土
胴気薬　こまく　金薄　あをびのミく
玉櫁　三稜霜　あまがいる月　鯉のコケラ月
梳の肝（キモ）月　赤犬ノ肝月　王川毛月　何も粉〆あへた
合耳カキニ壱ツ飯ニ包七日飼へし
同薬田がらしの根のびれし玉櫁　梅ぼし月

何れも粉にし大ほね耳かきニ五ツ麩にて包飲べし

同薬人参　甘草　茯苓　地黄　何れも粉

ほね耳かきニ七ツ麩にて包をこゝべ又ハりうこかゐ

の汁にてひたし飲べし

同薬かんすいせき　甘草　玉猫黒焼　丁子

茯苓　石のこけ　何れも粉にし大ほね耳かきにて三ツ

三度ツヽ飲べし

同薬人参　甘草　茱萸子黒焼　なべの煤

せんぜず何も粉メ水にて耳かきに五ツ餅包服べし

第十二

一藜（リ）茱カクレニシキ黒焼　白犬舌同牛尾骨黒
牛（ヨミカヱル）ヒタイノ草同女ノ手の爪同人参少シ粉子
あぶるべし耳茱粉メ同何も粉メ水にて鷹唐ニ
おしあてあらにて酒耳かきに三ツ服べし
同茱ちいさき麻　芦毛馬ノふん何も水人参
少加へ黒焼にして粉メ耳かきに三ツ服べし又ハ薬餅なと

喰ハざるハ嘴の口をあけて薬入て水を飼べし

第十四

一 鷹据放又嘴ニ飼薬 芦毛馬の尾の足子ゝの毛 猫頭黒焼 木いちごの木 同根（木皮） 同 去龍胆

右粉メ耳かきニ三ツ程へ据出ル時飼べし

毎日鷹を据ルべしや

第十五

一 血下薬 大黄（一ト） 檳榔子（二朱） きりんけつ（一朱）

鹿肉（一朱）茯苓（朱中）沈香（三朱）射香 虎骨（一朱）
五八子（朱中）桔梗根（二朱同）人参（二朱）甘草（壱朱）
きんてんがい壱朱何も粉メ耳かきニ五ツ餅包て服ニ
長肉行肉肉切レ中風イキレ万病ニ服べし
重たる病ニハ去龍ヲ加へべし

一 身そけの薬 川大黄粉メ汁ニ糸を付て糸ニ
大黄をぬりて腫る所ヲぬい通すべし

第十七

一 骨續付薬　生（ナマ）山のいもをすりて其内ニ黒猫黒焼二匁　楊梅皮二分　まんてんくハ一匁　古綿黒焼一匁　古桶皮黒焼　何も粉ニ　山のいもの内へ入ねり合せおれたる骨の上ニ付べし　柳の皮ニてまくべし

第十八

一 鼻タチ薬　川よめ　丁子　卵生皮　何も粉ニ　ホくら耳カキニ三ツ餅ニ包飲べし　又葉餅ニ浸て飲

同癖治かくひるをほそくけずりて丁子
を粉ニメ酢ニて合鼻の穴よりふり入て後ニ楊梅ヲ
粉ニメ酢ニてこき鼻ニよしのすゝて吹入べし

功十九

一 クツクタケ茶 サイノ角ヲ粉ニメ合るの身ニ包て七日
飯ゞ下 同あづきを粉ニメ湯ニ入てさまして
さいゝ飯ゝ先達ニてべし
同茶 地黄 茶節草 車前子 蘭香を伏りて

五日も六日もづけて細々洗ひてよし
同葉一天禄づゝまず七枚入黒焼にして
耳かきに二ツゝ三日飼べし
同葉きんせん花の若葉をとわして黒焼ぶどう
の葉をわして黒焼　桂心何も粉ゝ末にて耳かきに
三ツ餌に包五日飼べし

考井

一　羽ぬけいへ葉　しだれ柳末へさしたる枝黒焼

一
耳草一分　ひつじの毛黒焼等中　川芎一分
もつかし一分　茯苓（ブクれう）一朱　何も粉にしてまぜて
合耳へまきこみ三ツ鍋に包二日め七日め銅屋（だ）し
同薬ニくむし黒焼　加まの不同二年味噌同
何もあはせ人参の汁にて練合如げたる丸の
去んにぬるさし入れや生姜生の肉薦にたらゝね
やにはさむべし
坤卅一

一豆腫薬　猫の足の骨古ヲ粉〆とろこの若根の
皮ヲ去してこゝ汁にて練合さい〳〵付べし
同薬　ゆしのつゝに　地黄　鱉骨　せんまいの根
杉のやに何も粉〆等分続飯にて付べし
瘡ニて急ニ出ずバ豆も完りてよし
寸廿二
一色かり薬　うりろく　まつゝ　丁子　何も粉〆
等分耳かきニ七ツ三七日用べし

同付薬　あめうしのふんをこくまし粉にメ
酢にねり合せてかゐてに色をとけ練てぬるべし
先皮肉の旨にきんきんをとひ付るべし

第廿三

一　中風薬　深山うふうくらをとのけ黒焼にすべく
らのこゝのけて黒焼　桐のこにして黒焼何も
粉メホゝ耳かきに三ツ餅に包七日服べし
同薬　桑の木をくづ　大むぎ　大麦是を

薬じせんじにうすミをとさ盃へ合をとゝて此薬
せんじ水に入糟をとふせてかちんの布に包
此いきみてもちひずし糟のほど細に水に入べし
右廿四

一 いぎりの薬　きんかうし　ゑぞやの毛 黒焼
粉にして猪の油にて練り合付べし
右廿五

一 尾羽落し薬　猫の肝 黒焼　猿の肝 同　尾長鳥 同

猫肝同何も粉〆ホして耳かきニ五ツ餅ニ包七日飲ら

同薬 カツヲぶしけずりし 生大蒜又生薑何も粉〆

ホして耳かきニ五ツ餅ニ包七日飲べし

也廿六

一 尾ニツ羽ニツ薬 菖蒲根二卜 木香二分丹参日（芍薬）

たつしかくし一分ツ蓮毛ふ日何も粉〆耳かきニ五ツ

日ニ三度飲べし

同薬 なまのりニ五寸を加へ羽ニこての羽へさすべし

第卅七

一 小麦ゝこ　茶　白ゐ　丁子　川芎根　ゐもだゞれ気ニ何も粉にして赤ゝう色の根に入べし

一 鳳茶きらじの粉　白ゐ　かはらけ粉四とゝかゝ余赤ゝう色の根に入べし

第卅八

一 石菖蒲し　大黄一分　庭とこの根二朱　沈一朱　ますず一粒　志たん一朱　耳づく玉蔓　木通子一朱ゝ

七分ましだんひのつる同御来よりの根目右
天目ニ水二はい入一はいニ煎じかくすニ而用し
後ハ石菖を二分入煎付て石菖の長サ二寸ニ
切り三ツ服べしうちにつく時ハ病おこるべし
ところニまハれ時ハなをりがたし

紫丹丸

一 白薬 檳榔子 いかこ 薬師草 葦毛馬
のふん黒焼何も粉〆茶ニ耳かきニ三ツ程服（べし）
同無よくべし

背卅

一下氣薬人參　青しのゝ黒焼かち栗
何も粉にして耳かきに三ツ日に三度ツヽ宵飼べし
胴ニ胴氣にもよし

背卅一

一鷹フテリノ薬　牛膝黒焼水合かたく合せて
耳かきに五ツ餌包二日飼べし

背卅二

一白馬散　黄色なるのふん百匁目田のしぶ十匁
地しやわ十匁黒焼にして一ツに合して手攪かし
耳カキニ三ツ傅ニ包用べし

一三白散　ひつぢ羊二百匁目あをさ百匁目くず十匁
人参二分猪のきも一ト耳掻かし合して粉にし耳
カキニ三ツ湯用べし
青冊三

一コせ薬　天南星　くろしやき　水合して粉にして

酢にて祢り合て付べし先ひむろをせんじて
瘡口をよく洗ひべし扨右の薬能々付て置
二日ある迄薬あてゝ洗ひをとゞめてやがてかさとるべし

妙丹円

一　目まくの薬　えんろく　丁子　沉香　何も
等分天目に水一ぱい入せんじて薬洗べし
同さし薬　ましきん切しさすべし

妙丹又

一　衣類に猫の付たるをこれ落しは　葉うるしの葉
うじげおとし黒焼　桂の三度をさりて黒焼かくし
の葉うじげおとし黒焼にいたし粉メふのり人の大にする
かミにのべて付一夜置べし扨湯にて洗ふべし
落るなり

中卅六

一　衣類実上り葉　ひつぢ草洗ひて其汁にて
絹を洗ひ絹ならし　又耳草を加減ても洗染ニ絹